

横須賀市立長浦小学校

学校便り **ながうら** 陽春4月号

平成26(2014)年4月25日(金)

発行 学校長 大西 正康

葉桜の頃に

咲 き誇っていた桜たちも、ひと仕事を終えた安堵感のような様子を漂わせているように感じます。さて、今年度もスタートして、早ひと月になろうとしています。皆様には益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃より、温かいご支援を賜っておりますことに篤く御礼申し上げます。

今年も、『ゆっくりと しかし 着実に』進みたいと考えています。無理せず一步一步坦々と歩いていき、ふと振り返った時に、『おっ、かなり登ってきたな。』・・・このような日々でありたいと、常々考えています。皆様、今年度もどうぞよろしくお願い致します。

1. 学校教育目標

本校の学校教育目標を次に掲げます。日々の教育実践の中で、具現化し追求していかねばならないと全職員で考えています。

1. 自ら考え工夫する子
2. 思いやりのある子
3. 礼儀正しく元気な子

2. 校内職員の動向

今年度職員の異動等につきましては、保護者の皆様にはすでにご連絡したところですが、地域の皆様には改めてお知らせ致します。今年度も職員一同、気持ちを合わせて長浦小学校の教育活動に誠心誠意取り組んで参ります所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

< 離任した職員 >

- ・ 山本 良太教諭 (汐入小へ)
- ・ 筒井 有子教諭 (夏島小へ)
- ・ 吉田 文江教諭
- ・ 長谷川友廣用務員 (久里浜小へ)
- ・ 大塚 和子調理員 (沢山小へ)
- ・ 渡部 久子調理員 (高坂小へ)

< 着任した職員 >

- ・ 石濃富美江教諭 (田戸小より)
- ・ 眞田 励子調理員 (根岸小より)

< 本年度の職員体制 >

- ・ 校長 大西 正康
- ・ 教頭 菅原 和子
- ・ 級外担当 小島 弥生
- ・ 青空1組担任 新倉 崇仁
- ・ 青空2組担任 雪浦 郁子
- ・ 1年1組担任 碓井 佐智子
- ・ 2年1組担任 曾我 華名子
- ・ 3年1組担任 石濃 富美江
- ・ 4年1組担任 加藤 敦子
- ・ 4年2組担任 蛭田 新次
- ・ 5年1組担任 佐々木 優
- ・ 6年1組担任 佐藤 宏
- ・ 学力向上放課後教室サポートティーチャー
為廣眞基子・三橋 直樹・鈴木 総子
- ・ 養護教諭 下井田いずみ
- ・ 事務職員 天城 勇
- ・ 学校用務員 鈴木 雅恵
- ・ 給食調理員 三浦 豊子
- ・ 給食調理員 眞田 励子
- ・ 栄養士 渡邊 和子
- ・ A L T マットマケープ
- ・ ふれあい相談員 市川 敏子
- ・ 学校図書館コーディネーター
小田部 敦子
- ・ 教育支援臨時介助員
中山 蒼子・八島 みづ江

3. 今年度の変更点について

今年度からの変更点につき、確認の意味も込め、改めて記します。

①授業日数の増加

市内全校での試行（今後変更もありうるということ）ですが、次の5日間が増えます。

- ・ 7月22日（火） 5校時まで
- ・ 8月27日（水）・28日（木）・29日（金） 3校時まで
- ・ 12月25日（木） 5校時まで

従って、夏休みは、7月23日（水）～8月26日（火）、冬休みは12月26日（金）～1月7日（水）となります。

②通信簿の評定欄追加

3年生以上の各学年末に評定欄（3段階）が加わります。これは、今までの〈観点別評価〉に加え、より〈総体的な学習状況〉を示そうとするものです。

4. アレルギー対応について

〈安心・安全〉、これが何より学校に求められる前提だと思っています。その〈安心・安全〉確保の一つとして、〈（食物・薬品）アレルギー対応〉については、十分な配慮をしていきたいと考えています。別紙でお知らせしましたが、給食について、保護者の方と担任教諭・養護教諭・学校栄養士・給食調理員等との綿密な打ち合わせをし、間違いのないように日々努めています。また特に食物アレルギー対応に関しては、日常的なお菓子交換（遠足時や友人宅等）、学級PTA活動での飲食等も含め、より十分な注意をしていきます。心配な時には〈食べない〉、そして〈食べさせない〉配慮が、安心につながります。

《主な予定》

< 5月 >

- ・ 1日（木）春の全校遠足（海の公園へ） 予備日9日（金）
- ・ 10日（土）市児童相撲大会（横須賀アリーナにて）
- ・ 16日（金）地区別集団下校訓練
- ・ 24日（土）運動会（雨天順延）
- ・ 26日（月）振替休日



校長室より

給食から鯨の肉が消えて久しい。かつて南氷洋捕鯨華やかなりし頃、この長浦港は捕鯨船団の一大基地だった。本校と鯨とは、古くから繋がりがある。しかしこの情勢下、鯨が給食の献立として復活する可能性は低いだろう。『もう一度、給食で鯨の肉を食べたい。』そう思う一方、かつて見たある映像を思い出すと私の気持ちも複雑になる。それは、キャッチャーボートに追われた子どもと思われる小さな鯨が、まさに銚子を撃ち込まれようとしたその瞬間のこと！突如として浮上してきた二頭の大きな鯨（親なのだろう）によって、救われようとするシーンだったのだ。『早く、急いで向こうに逃げろ。』大鯨はそう言っているかの如くだった。親が子を、あるいは力の強い者が弱い者を、身を挺して助け庇おうとしたその劇的な姿を私は忘れることが出来ない。こういう感情的な見方が捕鯨反対論に繋がるのだろう。また、別な道を歩いていた私が、教師になろうと考えたのもこの映像が一つのきっかけだった。複雑な思いと共に、あの固かった<鯨の竜田揚げ>をもう一度噛みしめてみたい。

『若葉寒』の季節です。皆様、くれぐれも体調を崩されませんように。